

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4270201348		
法人名	有限会社 グループホームかいぜ		
事業所名	グループホームかいぜ	ユニット名	
所在地	長崎県佐世保市皆瀬町270-12		
自己評価作成日	2024年 11月 26日	評価結果市町村受理日	2025年 1月 22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php?action_kouhyou_pref_topijevosyo_index=true
----------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般財団法人 福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市中央区薬院4-3-7 フローラ薬院2F		
訪問調査日	2024年 12月 6日	評価確定日	2024年 12月 28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

コロナも落ち着き少しずつ、以前の生活に戻って行っています。外出支援も工夫をしながら行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

“グループホームかいぜ”は、2023年4月から代表等が新体制になっている。アセスメント等のソフトも新しくなり、関連法人の職員の応援を受けることもできている。ホーム名、ホームの理念等は同じで、管理者と職員も変更なく日々のケアを続けることができている。終末期ケアは行わない方針になったが、1階の神谷医院との医療連携は継続し、看護師への相談等も24時間体制でできている。変化の多かった1年半ではあるが、管理者のお人柄もあり、職員は更なるチームを作りながら、現在の社長・常務・介護支援専門員などと連携し、9名の入居者の方々の個別ケアに繋げている。ホームは3階で見晴らしも良く、お寺の桜や教会のイルミネーションなどを楽しむことができ、季節を感じながら過ごされている。日々の生活で歩行訓練や体操なども行われ、カラオケも楽しまれており、月日や天気、本日の予定などのカードを職員が作成し、入居者の方々と毎朝準備している。少しずつ地域交流も再開し、外出の機会を作り始めており、紫陽花見学を楽しまれた際に関連法人の施設に立ち寄り、友達と再会できた方もおられる。今後も入居者の方々の日々の笑顔を増やすために「食レク」や散歩などの機会を増やし、更なるアセスメント内容を記載し、介護計画（有する能力・リスクマネジメント等）に繋げていく予定である。

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓ 該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓ 該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目：9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目：11,12)
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者と職員は理念を念頭に置いて毎日のケア、生活しやすい環境につなげている	運営者が新体制になった後も理念は変わらず、「笑顔で明るく自分らしい生活を送る為の支援をいたします。一人ひとりの人格・個性を尊重し支援いたします。地域に根付いた支援を目指します」という理念を大切にされている。新人職員にも理念を説明し、日々の生活の中で「自分らしい生活」となるよう、チームで支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事など参加可能な状況になってきたのでこれからは少しずつ交流の場を増やしていきたい	2024年12月「きらきらチャリティー大パーティー（佐世保の四ヶ町アーケード）」に管理者と職員が参加し、地域交流することができた。コロナ前は保育園児との交流があったが、コロナ禍も園児作成の七夕飾りなどを先生が届けてくださり、ホームから子ども達に駄菓子をプレゼントしている。2024年10月のおくんちの際には、“はなたこさん”がホームに初めて来てくださり、交流することができた。2025年3月は中里皆瀬地区自治協祭があり、手作りの貼り絵等を展示予定である。コロナ前は「つんのーで歩行ラリー」や夏祭り、中学生や高校生の訪問があり、交流を楽しまれていた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍の為地域やボランティアとの交流が減っていたが、これからは地域貢献が出来るようにしたい		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では（書面）ホームの状況を報告し、意見を頂いた場合は話し合い、サービスの向上に繋げる努力をしている。	感染状況に応じて「書面開催」と「通常開催（対面）」を行い、家族代表、地域代表、地域包括、別法人のグループホームの管理者等が参加して下さる。ホームの取組みを報告し、地域情報等を参加者の方々も教えてくださっている。管理者は他の2つのホームの運営推進会議に参加し、情報交換している。今後も家族の方に運営推進会議の議事録を郵送し、会議内容を共有していく予定である。	

自己	外部		自己評価		外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	コロナ禍の為に以前に比べたら対面での相談等は減っていたがこれからは市町村との連携を増やし協力関係を築きたい	佐世保市から研修等のメールをいただき、受講の参考にしている。2024年度は佐世保市の運営指導を受け、生活福祉課から生活保護受給のアドバイスを受けることもできた。運営推進会議で地域包括の取組み「みんなのカフェ」「わくわく健康まつり」等の紹介もあり、参考になっており、地域包括の方と入居に関する情報交換をすることもある。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアについて研修や話し合いで正しく理解しており本人の行動を抑制しないケアをしている。	運営推進会議やミーティングの際に「身体拘束・虐待防止委員会」を行っており、入居者への声かけの仕方など、日々のケアの話し合いをしている。GH連絡協議会の研修にリモートで参加し、職員間で共有している。今後も「身体拘束廃止委員会」と「虐待防止委員会」における議題を検討し、記録のあり方も検討するとともに、職員間の意見交換に繋げていく予定である。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員間で話し合い入居者の人格を尊重し虐待防止に努めている。			
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見制度を申請された方がおられたので関係者と相談しながら出来る限り支援した。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約等については十分に話し合い説明を丁寧に行い理解していただいている。			

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会に来られた時に意見・要望等をお聞きし対応している	感染状況に応じて面会方法の検討が行われてきた。現在は居室で2人まで、短時間（10分）の面会ができるようになっており、家族との団らんを楽しまれている。管理者が主となり、日々の暮らしぶり、健康状態等を家族に報告し、家族の不安などを理解するように努めており、職員も適宜家族と情報交換している。 家族への通信には写真も載せている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング時や通常の勤務時等に個別に意見を聞き反映させるようにしている。	職員のアイデアは豊富で、日めくりカレンダー等を作り、入居者にめくってもらっている。入居者への声かけの仕方や呼び方など、職員のアイデアも取り入れ、検証も行われている。管理者も職員の要望を受け止め、勤務希望等を把握し、シフト組みをされており、職員同士の助け合いもあり、良きチームとなっている。夜勤専従の職員も複数勤務しており、今後も災害対策を含め、情報交換を密に行っていく予定である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員と接する時間を作りそれぞれの良いところを伸ばし向上心を持って楽しく働ける職場作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	一人ひとりの能力に応じて研修会への参加・資格取得の声掛けをしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍の為出来ていない状況だったが今後は同業者と交流する機会を作り勉強会や研修等に参加しサービスの質を向上させていく取り組みをしている		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に面談を行い話を聞いて本人の状況・様子を把握する。不安・要望を受け止め安心してもらえる関係づくりに努めている。		

自己	外部	外部評価	
		自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居希望の問い合わせ・面談の段階から電話等で家族の不安や要望を詳しくお尋ねし安心してもらえるようにしている。
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族にとって今何が必要なのかを状況や話の中で捉えホームだけにこだわらず他に適したサービスがないか話し合うようにしている。
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共同生活のなかで本人らしさを引き出せるような関係づくりを心掛けながら本人の出来ることをしてもらっている
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支えられる一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居後は家族と話し合いをしながら本人が安心して生活できるよう協力体制を整えている。
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ホームに知り合いが来られた時には面会をしてもらっている。 家族の面会とともに、入居前のお隣の方が郵便物を持って来てくださる。関連法人の施設に立ち寄った際に友達と再会でき、喜ばれていた方もおられる。年賀状作りも継続し、自分で書かれる方もおられる。コロナ前は馴染みの店（モール）に洋服を買いに行かれる方もおられた。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は一人ひとりの性格・他の利用者の方々との関係をしっかりと見極め全員が協力し助け合って楽しく生活出来るように努めている。
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了した場合も出来る限り相談に乗り不安・心配が少なくなるよう努めている。

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で本人と話しながら把握に努めている。困難な方の場合には家族の話や本人の状況を確認しながら本人本意に検討している。	リビングで団らんしている時や入浴時、日々の会話や活動を通して、思いの把握に努めており、「家族に会いたい」「買い物に行きたい」等の願いを叶えている。今後も以前使用していた「センター方式」等を活用し、生活歴、思いや意向等の追記ができればと考えている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族から話を聞き今までの生活歴や環境等を把握するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの日々の状況・心身状態・得意なこと苦手なこと等は些細なことでもきちんと記録したり申し送り等で全職員が把握するよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人は日常生活の中で家族には面会時に意見や気持ちをお尋ねするが要望をお尋ねしている。	ご本人と家族の思いを大切にされている。入居者の生活習慣等を尊重し、「できること」を引き出すように努めている。作業療法士の訪問もあり、リハビリの視点も強化しており、「イージーウオークを使って足首の運動」「廊下を歩く」「体操」「洗濯物たたみ」「テーブル拭き」等も盛り込まれている。日々「介護実施表」にチェックし、適宜見直しをしている。以前使用していたセンター方式等の活用を、今後検討していく予定である。	①今後はアセスメント用紙のADL（起き上がり・立位等）の能力、IADL等の能力、右側の個々の特記事項を更に増やすとともに、各活動の「要望」と「できそうな事」、「見守り等、一部介助」の詳細な内容、ケア内容（解決策）等を含めた課題分析結果が増えることを期待していきたい。 ②アセスメントと介護計画の整合性を確認し、日課計画表等に留意点を追記し、ご本人と家族の話し合いを増やしていく予定である。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は日誌に、ケアプランのケアチェック表にケアプランの結果や気づきを記入し全職員が情報を共有し実践・見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況に応じて本人にとって必要で安心を得られることを最優先し柔軟に対応している。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の一員として出来ることを協力し生活を楽しめるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	現在は入居者の方はホームの協力医に受診されており事業所との関係も良好で適切な医療を受けることが出来ている。	1階に神谷医院があり、毎週の往診を受けている。神谷医院は外来専門であり、夜間の体調変化時は神谷医院の看護師に連絡し、必要に応じて院長等に繋いでくださる。他科受診や歯科は職員が受診介助し、家族と情報共有しており、職員の観察力で、早期対応に繋げている。神谷医院の薬剤師との連携もできている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日頃の気づき、状況は看護師に伝え不安や心配なことはいつでも相談している。心配な時は看護師から主治医に連絡し適切な診察が受けられる体制を整えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先のソーシャルワーカーの方と連絡を取り合っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に本人や家族にアンケートを行っている。状況に応じてその都度主治医・看護師・家族・職員で話し合いを行いチームで支援に取り組んでいる。アンケートも状態に応じて取り直している。	運営体制が変更になって以降、終末期ケアは行わない方針になっている。「終末期の看取り等について（事前確認書）」の7つのアンケートは継続しており、ホームで「できること」を家族等に丁寧に説明し、入院日ギリギリまで誠心誠意のケアを続けている。日中は1階の看護師が医師の指示のもと、点滴や酸素などを行っている。今後も重度化・終末期に対する想いを伺い、以前使用していた「センター方式（C-1-2）」への記載等を検討していく予定である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	その都度看護師に尋ねたりマニュアルを使い研修を行い実践力を身に付けるよう努力をしている。		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
35	(13)	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。また、火災等を未然に防ぐための対策をしている</p>	<p>年2回の火災訓練を行っている。水害などの災害時にはホームに留まり状況を確認し地域と連絡を取れるようにしている。</p>	<p>入居者、神谷医院、設備業者と日中想定訓練（火災）を行っており、夜間想定の際はホームのみで行っている。自動通報には消防団OB等の方も入り、消防署の方も毎年点検に来られる。</p> <p>災害に備え、入居者の薬などを記載した個人票・リュック・軍手・タオル・リハパン・水（ペットボトル18本）・非常食・缶詰・おやつ等を準備し、入居者個々の頭巾等を準備している。災害や感染対策を含めたBCP（事業継続計画）も作成済みで、自然災害時はホーム（3階）に待機予定であり、災害時を想定した訓練（停電等）を行う予定である。</p>	<p>ホームは1ユニットであり、今後も常務などと相談し、夜勤専従の方が訓練に参加できる方法を検討していく予定である。</p>
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	<p>○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保</p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>入居者個人の意見を考慮しプライバシー確保を保守しながら支援している</p>	<p>事務所に「やさしいことばで～。同じ目線で～。静かに語りかけましょう～」という標語を貼り、職員は日々確認している。優しい職員ばかりで、言葉遣いにも配慮しており、入居者との会話を楽しまれている。個人情報管理（守秘義務）も行い、「写真掲載の同意書」も頂いている。入居者の呼び方も「苗字」「名前」のどちらが良いかを個別に検討しており、今後ご本人と家族に確認していく予定である。</p>	
37		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>日頃の会話や家族の話などから入居者の思いや希望を受け止め自己決定出来るように支援している。</p>		
38		<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>日常生活を送るにあたりホーム側、職員側の決まり事を優先するのではなく入居者のペースに合わせて日常生活を送れるよう支援している</p>		
39		<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している</p>	<p>個人の個性を尊重しその人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援をしている。</p>		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の食事形態を考慮しつつ好物を取り入れ栄養状態も確保出来るよう考慮し提供している	2023年度から「セイブスマイルキッチン」の宅配を利用しており、カロリー計算もされている。2024年12月まで2階の厨房スタッフが湯煎と配膳をしていたが、2025年からホームの職員が行う予定である。季節の料理（筍料理など）を楽しむとともに、ひな祭りは「ちらし寿司」「桃カステラ」「桜餅」等を楽しまれている。入居者もテーブル拭きやお盆拭き、箸や湯飲みの準備等をしてください。	ホームで過ごす時間が増えており、今後も入居者の方々が培ってこられたお力を引き出すため、「食レク」と称してホットプレート等で焼きそばや餃子作りを楽しまれる予定である。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の水分摂取量・食事摂取量を記録している。栄養やバランスを考えて提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアを実施している。個人の口腔状態に応じ清潔保持できるよう支援している		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄は入居者の排泄パターンを把握し出来ることは見守り、出来ないことを支援している	排泄が自立し、布の下着を着用する方もおられる。入居時から排泄のアセスメントを行い、パッドの大きさ等を検討している。ご本人だけに聞こえる声かけを努めているが、難聴の方もおられ、ご本人に応じた誘導を続けている。職員間で情報交換する際も、羞恥心に配慮して「便」は「お花でした」、「尿」は「お水でした」等に言い換えている。入居者の方に水素水を提供しており、排便効果（減薬）が出ている方もおられる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況を把握し食事、水分、摂取量、運動量をみながら適切な対応を心掛けている また、医師、看護師への報告を行い早めの対応を行っている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は決めてはいるが、希望や状況に合わせてシャワー浴もいつでも出来るようにしている。	週2回の入浴日以外も、清拭と陰部清拭等が行われている。できるところはご自分で洗われており、入浴時は職員との会話も弾み、歌も聞かれており、お茶の葉湯や菖蒲湯も楽しまれている。冬は乾燥が気になり、処方の保湿剤を塗っている。	

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人の生活習慣を把握し本人の意思を尊重し自室で過ごされる時間も大切にしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理表を作成し常に確認できるようにしている。薬日については資料を見たり看護師に聞いたりして理解するようにしている。服薬等に変化があった時には主治医に連絡している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	話をするのが好きな方が多く気の合う同士でそれぞれに楽しめる事が多くなった。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	少しずつ緩和され状況に応じて外出等の支援を行っている	1階の神谷医院に受診した際に散歩したり、近くのドラッグストア等におやつや買い物（月1～2回）に行かれたり、玄関前のお花を眺めている。敬老会（2024年9月）で、恒例の「サンパーク吉井」に行き、釜めし御膳等を楽しむことができ、ホームからハサミ等を持参し、摂食状況に応じて「刻み」「ミキサー」食を準備された。コロナ以前は季節の花見やドライブを楽しまれ、家族と食事に行かれる方もおられ、今後も天候に応じて外出の機会を検討する予定である。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	以前はお預かりしているが方もおられてがご家族より「持たせたくはないです」との希望があり今は持たれている方はおられないが希望があれば対応できる体制はとっている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が家族に欲しいものリストを手紙として渡される支援をしている。希望があれば電話はいつでも対応している。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は不快や混乱を招かないように工夫し季節の花や行事ごとの飾りつけをして居心地よく生活出来るように工夫している。	リビングで過ごされる方が多く、体操やカラオケ、塗り絵、風船バレー等を楽しまれている。月日や天気、本日の予定などのカードを作成し、入居者の方と毎朝準備している。感染対策で空気清浄器を使用し、換気を行い、カーテンで光の調整をしている。ホームは3階にあり、教会のイルミネーションやお寺の桜を楽しむこともできる。トイレに長く座られる方もおられ、熱中症予防でサーキュレーターを設置している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室が好きな方、ホールで過ごすのが好きな方それぞれの思いで過ごしていただけるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前に本人・ご家族と相談し馴染みの品物を使用してもらい以前の環境に近くなるようにし本人が居心地よく過ごせるようにしている。	リビング等の左右に居室が続き、ベッド、たんす等は備え付けである。ホームからの誕生日の色紙や飾り物も置かれ、家族の写真やペット（犬）の写真などを貼っている。移動状況に応じてベッドの向きや家具の配置を工夫し、ポータブルの前にはカーテンスタンドを置いている。居室の整理整頓ができる方もおられ、適宜換気を行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下には便所と書いた紙を貼って迷わずに行けるように工夫している。		